

## 藤沢市総合教育会議 議事録

会議名	平成 29 年度第 2 回 総合教育会議
開催日	2017 年（平成 29 年）10 月 18 日（水）13:30～14:50
場 所	森谷産業旭ビル4階 第1会議室
出席者	<p>（市側）鈴木市長</p> <p>（教育委員会）平岩教育長、中林委員、小竹委員、大津委員、飯島委員</p> <p>（講師）まりあ食堂運営スタッフ 鳥生文子氏</p> <p>（関係職員）教育次長、教育部長、教育総務課長、子育て企画課主幹、地域包括ケアシステム推進室主幹、同室室長補佐</p>

### 【議事録】

#### 事務局（司会）

- ・ただいまから平成 29 年度第 2 回総合教育会議を開催いたします。
- ・会議に入ります前に、会議の記録のために録音をさせていただいておりますので、あらかじめご了解ください。なお、傍聴者の中で録音あるいは写真撮影を希望される方はいらっしゃいますか。（なし）
- ・また、本年 10 月 1 日付で大津委員が教育委員に再任されましたので、引き続きご協力をいただきたいと思います。
- ・本日の議事は、「地域における子どもの育ちや見守りについて」ということで、1つの事例として「子ども食堂」の活動紹介を、片瀬地区でまりあ食堂の運営スタッフをしておられる鳥生さんをお願いしておりますので、よろしくお願いいたします。
- ・それでは、開会に当たり、総合教育会議座長の鈴木市長に一言ごあいさつをお願いいたします。

#### 鈴木市長

- ・皆さん、こんにちは。市長の鈴木でございます。
- ・総合教育会議にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。今日は久しぶりにさわやかな天気となりました。最近の天候もあって、残念ながら土・日に行われる予定

であった秋の行事等が多く延期や中止になってしまいました。今週、来週にかけても公民館まつりや各地区のレクリエーション大会等が予定されております。ぜひ多くの市民に参加していただき、またそのような中で子どもたちの声を聞くことにより、大変元気づけられると思っております。

- ・10月28日には2020年のオリンピック・パラリンピックの1,000日前イベントがテラスモールでございます。これは県との共催ですが、レスリングの金メダリストとか、いろいろな方にお越しいただいて、講演会や体験会の開催をいたします。他にも青少年を対象にしたものも多く行われますので、こちらぜひ参加していただきたいと思っております。
- ・今日は、子ども食堂ということで、まりあ食堂に関わっていらっしゃる鳥生さんにお話をいただき、その思いを共有しながら、さらにより良くしていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

## 事務局（司会）

- ・ありがとうございました。
- ・本日の議事は、「地域における子どもの育ちや見守りについて」ですが、関係職員のほか、今回の議題に関連する子育て企画課、地域包括ケアシステム推進室の職員が出席しておりますのでご紹介いたします。（職員自己紹介）
- ・次に、本日の資料の確認をいたします。（資料確認）
- ・これからの議事進行は鈴木市長をお願いいたします。

## 鈴木市長

- ・まず、議事録署名人の決定をいたします。

## 事務局

- ・第2回総合教育会議の議事録署名人は、鈴木市長と中林委員をお願いしたいと思います。

## 鈴木市長

- ・議事録署名人には私と中林委員ということでよろしいですか。

（「異議なし」の声あり）

## 鈴木市長

- ・それでは、私と中林委員といたします。

## 鈴木市長

- ・次に、議題（１）地域における子どもの育ちや見守りについて、事務局から説明をお願いします。

## 事務局

- ・前回の会議において、「子どもたちを取り巻く環境」をテーマに、意見交換をしていただきましたが、その中で困り事を抱えている児童や保護者に対して、学校をはじめとする地域社会全体で連携して対応していくことの必要性、また、子どもたちの居場所づくりの重要性など、さまざまなご意見をいただきました。そのご意見を踏まえて本日のテーマを設定いたしました。
- ・子ども食堂の活動紹介に入る前に、現在、市内で行われている子どもの居場所等に関わる取組について、ご説明いたします。（資料１参照）
- ・子どもの居場所等に係る取組の一例を載せておりますが、市で行っている事業として、放課後の子どもの居場所として「放課後児童クラブ」、「地域子どもの家・児童館」があります。それから家庭の事情により夜に保護者と一緒に過ごす時間が限られている等の状況にあるお子さんを対象に、生活の支援や食事の提供などを行う子ども生活支援事業があります。続いて、経済的な理由などで子どもが勉強する環境を確保することが難しい方への支援として学習支援事業があります。それからお子さんだけでなく、誰もが気軽に立ち寄れる居場所として「地域の縁側事業」の取組も進めております。
- ・最後は、これから活動紹介をしていただきます「まりあ食堂」のように、地域の方々などが独自に子どもの居場所づくりに取り組んでおられる事例もございます。これらの事例は、ほとんどが地域の方々をはじめとするさまざまな主体と連携し、マルチパートナーシップを図りながら取り組んでいるものです。
- ・これから「まりあ食堂」での取組事例をご紹介しますが、はじめに本日の講師の鳥生文子さんをご紹介します。鳥生文子さんは、現在、藤沢市の職員として生活保護課に所属しており、長年にわたりケースワーカーや査察指導員として、生活保護行政、特に子どもの支援に深く携わっておられます。また、業務を離れてボランティアとして地域の有志の方々と「まりあ食堂」の運営に取り組んでおられます。本日は「地域における子どもの育ちや見守りについて」をテーマに、地域をはじめとしたさまざまな方との連携により運営されている「まりあ食堂」の活動を紹介していただき、その後、委員の皆様と意見交換を進めていただければと思います。
- ・それでは、鳥生さん、よろしくお願いいたします。

## 鳥生氏

- ・ただいまご紹介いただきました鳥生でございます。それでは、資料に沿ってご説明いたします。(資料参照)
- ・1ページに「まりあ食堂スタッフボランティア」とありますが、スタッフボランティアとは、まりあ食堂を立ち上げたメンバーで、自分たちでスタッフボランティアと呼んでいるということです。
- ・それでは、この活動の成り立ちと、これまでの歩みを中心に「まりあ食堂」の活動についてご紹介をさせていただきます。「ようこそ！まりあ食堂へ」ですが、この活動は、孤食にある子ども、1人でしかご飯が食べられないような子どもが、1人でも来られる食堂であったり、子どもの心と体を健康に健やかに保つお手伝い、または食を通して子どもの育ちを見守ろうというコンセプトで昨年6月に開始した活動でございます。そして10月5日に18回を数えるまでになりました。
- ・まず、オープンまでの経緯を簡単にご説明しますと、私の運営スタッフボランティアへのきっかけは、1つは、生活保護の方で、子ども支援の活動をしているらしいということを知りつけてくださった片瀬地区の民生委員さんがおられて、児童福祉対策部会と低所得福祉対策部会の一部の方から招かれて、生活援護課の子ども支援の取組を紹介する機会が平成26年にありました。その時に片瀬地区の子どもたちを健康にしたいので、できることなら子ども食堂を立ち上げたいというお話を伺っていました。もう1つのきっかけは、藤沢市が学習支援事業を委託している「きずなレッジ」という活動がありまして、この活動を私個人として片瀬のカトリック教会と縁の深い藤沢教会を会場に、きずなレッジが活動をしているものですから、この活動を広く知ってほしい、ボランティアの方が増えたらいいなという思いで、平成27年11月にきずなレッジの方を片瀬教会にお招きして、活動を紹介していただく機会がありました。
- ・その中で代表の方から、教会やお寺は建物、庭、キッチンという資源があって、それを活用することを考えてもいいのではないかと。これは教会に来る方たちだけのものではなく、地域の方に開かれて、それを使っていただいでこそ、その場が生きるのではないかとというようなお話をいただいたことがありました。それを受けて教会の中でも、私たちにも何かできるのではないかとこの思いを持った人たちが自然発生的に生じて、小グループができて、「鳥生さん、次に何をやるの」と声をかけていただきました。それからもう、まずは現状を知ろうということで、「きずなレッジ」を見学したり、子どもの貧困の講演会に参加するなどして、自分たちは、どういう方に、どういうふうにしていきたいかという考えを整理していきました。この時点で食堂開始の構想はほぼ完成してはいたのですが、一方、地域の方もアンテナを高く立ててくださっていて、「どうやら鳥生が動き出したらしい」というようなことで、お話をする機会を持てたので、これらを共有し

ようということで、教会メンバーと地域メンバーとのお見合いをしました。お見合いをしたら、意気投合して「自分たち有志で団体を立ち上げてやろうよ」ということで、ごく自然な流れで教会内部の委員会でも、この建物を使わせてもらうことを承認していただいて、食堂の命名、広報周知活動、代表とか会計等の必要と思われる役割分担を決めて、それから保険の加入の準備を進めて、6月の第1回の開催に至りました。

- ・活動の内容は、主催は先ほど申し上げたお見合いをしたチームで、チーム教会とチーム片瀬と勝手に呼んでいるけれども、片瀬地域の有志と片瀬カトリック教会の有志で協力して主催しています。活動場所は、カトリック教会を使わせていただくのですけれども、教会というところは、どうしてもお通夜とか他団体に貸し出すこともあるので、そことバッティングして使えないことを想定して、隣の白百合学園のシャルトル聖パウロ修道女会ナザレト修道院にも会場の借用を打診したら、快諾していただけたので、教会が使えない日に備えました。
- ・活動時間というのは、教会の会場が開いている曜日・時間ということと、ボランティアの私たち自身がこの日だったら動けるという、私たち本位の日程でしたけれども、毎月第1木曜日の15時から19時と決めました。
- ・内容は、子ども食堂で食事の提供、それから片瀬教会の庭には大きなバスケットゴールと卓球台があるので、近隣の子どもたちがボールを持って、カトリックで遊ぼうぜという遊びに来るようなところがありましたので、ボールでも遊べるよと、積極的にうたっていくことにいたしました。
- ・対象は、子どもと子どもを苦労して育てている親御さんたち、関係する方ということで、子ども、または子どもと一緒に大人の大人に絞りました。
- ・ボランティアは、先ほど申し上げたチーム教会、チーム片瀬とは別に、それぞれが知人、友人、職場の同僚なりを巻き込んで協力してもらっております。地域で言うと、民生委員、青少年指導員経験者、子供の家の見守り関係者、その他、生活援護課の若手のケースワーカーが私と一緒に参加してくれまして、今ではそのつながりで高校生や大学生、または「ユースワークふじさわ」の利用者である青年も参加してくれています。
- ・遊びの場面では、「片瀬こま保存会」という片瀬こまの保存をしている団体の方が遊んでくださるとか、レクリエーションゲームをやる「せみの会」という有志団体にも協力をいただいているところです。参加者数としては、最初は少なかったけれども、最近子ども利用者だけでも100人を超えまして、1回目から18回目の平均は、ボランティアと見学者を含めますが、平均90人の参加で、120食ぐらい用意し開催している状況です。
- ・次に、チラシのご説明です。当時、私たちとしては、とにかく、始めてみようという一心でスタートしましたので、いろいろな方の声をいただく中で、子どもだけでこのチラシを見るのは難しいのではないかとか、子どもが拾ったとしても、ここが本当に安全な

場所なのかと心配になるといけないということで、家の人に声をかけてきてねとか、そういう言葉を少し入れたり改良を重ねているところです。このチラシは作成して、地域の保育園、小学校、中学校、子供の家、市の社会福祉協議会に手分けをしてご説明に伺って、趣旨をご理解いただいて、置かせていただきました。

- ・そして第1回目の6月2日(木)を迎えて、開始時にボランティアの心構え等のミーティングを行い、開始に備えました。ここでもし個人的な、とてもデリケートな場面に会ってしまったとしたら、この中だけにとどめて、それを教会の敷地を1歩外に出て、べらべらしゃべるといふようなことは絶対しないとか、個人情報交換を簡単にしないとか、そういった社会福祉施設の実習なりと言われるようなことを、みんなで共有して開始しました。始めるところでも、もしかしたらボランティアだけの食事になるかもねということ再三準備段階で話して、私たちは実は大きなタッパ(入れ物)を持ち寄って開始をしたほどで、もしかしたら自分たちで持ち帰るかもしれないと覚悟を決めてスタートしました。
- ・実際にやってみての「振り返り」ですけれども、チーム片瀬のメンバーの中には、地区社協でもって「にこにこ広場」といって、乳幼児の就園前の子どもの子育て支援をしている方が深く関わっていらっしゃるのですけれども、その後幼稚園・小学校に上がった後、どうしているのか分からず心配をしていた方が来てくださり安心したとか、また食事がとてもおいしかったと言って貰えたことで私たちもうれしくなり、献立をいろいろ試したいという意見などが出ました。当初は大人が多かったと思います。これは何かというと、多くの教会の信徒の方、地域の方がお菓子とかパンを持ってきてくださって、「オープンすると聞いたけれども、困っているのではないか」とか、皆様の気持ちや関心の高さを改めて知った場面でした。そういった差し入れも私たちを勇気づけてくださることになりました。
- ・その時に共有できたことは、いろいろなお母さんが見えるけれども、経済的困窮に焦点を絞るのではなくて、子育てというのは、共通してどんなに経済的に豊かでも大変なことであるので、当時はまだ、子育てに課題を抱えた家族の支えになりたいという思いはありましたけれども、何かのお手伝いになるのではないかとということで、振り返りました。
- ・利用者の声としても、また来たいとか、帰りたくないとかご意見をいただきました。中には心配していた親子の中で、4人の子どもがいるので、子連れでの外食は初めてと言うお母さんがおりまして、この方は今はリピーターになっていて、3回目あたりからは「ご主人の問題で悩んでいる友達がいるから、次は連れてくるわ」と言って、ママ友を連れて来てくださる紹介者となっていていらっしゃいます。利用者に参加のきっかけを伺ったところ、大人が情報をキャッチすることで子どもの利用につながりやすいということ

を知りました。同時に、孤立しているかもしれない子どもに伝える方法を考えていこうということで、小学校の先生に改めてご相談して、アドバイスをいただいたりしました。

- ・10ページの写真は、人が入る前はこんな感じで少なかったのよということと、11ページの写真は、チラシでパスタをつくりますといったところ、実はプロのイタリアンのシェフが手伝いたいと言って、来てくださり、12ページのような形で美味しそうな食卓を提供することができました。
- ・続いて、第2回目は七夕で、笹飾りや短冊を用意して張り切って臨みました。見学の方も増えまして、ご意見をいただく中で、私たち自身が活動を客観的に見ることができるようになりました。例えば場所が開放的で全体を見渡せて安全であると言っていたこと。私がずっと心配していたのは、教会が会場のため入りづらい方がいるのではと思い、率直に見学に来られた方に聞いたところ、お寺や教会という場所は、かえって安心できるということを言われて、どんな場所でどんな人がやっているのかわからないということがなくて、安心できるといった気づきが多かったです。一方、「子ども食堂と言うけれども、本当にこの中に困っている子が来ているの」という厳しいお声もいただいたのが第2回目でした。
- ・16ページから「こんな感じでした」という写真が続きますが、これは短冊が鈴なりになっていますが、短冊を用意しておいたら、1人4枚から5枚と書くのでこんなことになってしまいました。やはり私たちとしては、経済的に困窮とか、今、何か困っているということだけでなく、困っていない子も、みんなが元気に来られる場所であるように、もし本当に困り事が生じたときに、あそこがあったと思い出していただけることが大事だよということで、思いを共有したところでした。これは七色そうめんを張り切って盛り付けしているところです。
- ・21ページは、子どもがいる様子ですが、実際に私も体験して、隣に座っている子どもから、ニコッと笑顔で、「何かわからないけれども、楽しいね」と言われて、これがとてもうれしく勇気づけられた場面でしたので、こういう言葉を支えにやってきているということです。
- ・22ページは第3回目で、この日は、教会を他団体に貸し出す日に当たっていたため、白百合学園のナザレト修道院をお借りして開催しました。8月4日は酷暑の日で、その中で教会と修道会を往復してお鍋を運んだり、子どもの安全を確保するために外回りに立つとか、多くのボランティアの協力などに恵まれて開催しました。また、入ってはいけないスペースがありますので、遊び場の確保をどうするかなどという課題に突き当たりまして、室内で楽しく安全に過ごせるようにということで、ここで先ほど触れた「せみの会」の方、それから友人で、青少年活動に慣れている方にレクリエーションゲームをしていただいて、無事に食堂を終えることができました。

- ・この日は、藤沢の北部で、MOPという慶應大学の学生さんを中心に立ち上げている子ども食堂の方が、ボランティアで参加してくださったのですが、この方は1人暮らしの学生さんなのですが、活動していただいたあと、お菓子のお土産をたくさんお渡ししたら、「田舎に帰ってきたみたい」と言ってくださって、それも私たちにとってはうれしい場面でした。また男性が乳幼児を3人連れてみえたり、近所に越してきたばかりで知人がいないという親子の参加もあって、やりがいを感じるころでもありました。ここでは、日ごろ子育てに悩んだり、疲れたり、孤独を感じているかもしれない若いお母さんが、レスパイト（休養）的に利用してくれたいと再確認しました。
- ・29ページは第4回目ですが、私たちは3回開催してみても、色々とチャレンジをしたくなって、どうしてもお肉を食べてもらいたいと、子どもはお肉が大好きということで、暑さも残る中、教会のキッチンを使って、唐揚げをつくりました。揚げ物をするというのは、私たちにとって結構なハードルだったのですが、思い切ってやりました。ちなみに毎回、「振り返り」のときに献立を決めるのですが、献立を決めるのは5分とかからず、あっという間に決まります。美味しそうな意見もたくさん出ますし、後はおせっかいで食いしん坊の集団のボランティアの人達なので、若いお母さんがつくるには手間がかかるような料理も率先してやりましょうということで、メニューを決めています。準備も本番もみんなで楽しんで参加しています。
- ・秋に入ってから、他地区からの見学の方も増えたのですが、この中には2月になって、実際に東部で子ども食堂をオープンした団体さんも来てくださって、活動の様子をご覧になって、一部活用していただいているようなので、いい交流ができたと思っています。
- ・そしてこの頃からは「お気持ち箱」と呼んでいる募金箱を受付に置くようにしましたが、利用者の中にもお気持ちを入れてくださる方とか、食材を提供して下さる方も出てきましたし、趣旨や成り立ちを聞いて、来てくれる若いお母さんもいて、今後の新たな担い手につながっていくのかなということで、地域の支え合いの輪というのは、こういうふうに広がっていくのだという可能性を実感できるようになりました。また安全面では、1人で帰る子がいなくて、私たちはいつも門扉のところで確認しながら、「誰と来たの、どうやって帰るの」といって送り出すのですが、1人ということがわかると、ボランティアの2人が伴走して、玄関に入るところまで見届けるようにしています。そのうちに地域の防犯パトロールの方がちょっと立ち寄ってくださるようになりました。
- ・このような中で、見学の方や教会関係者から、本当に困っている方が来ているのかとか、困っている人に対して開催したいのに、普通のママがママ友を連れてきてしまうのではないかとされることも出てきて、スタッフで何度も話し合いを重ねて、私たちの活動の方向性は本当にこれで良いのか、これはいけないのだろうか、その都度考えを整理しました。



- ・ 37 ページですが、私たちの子ども食堂の形について、まず、私たちの子ども食堂って何だろうというのを、エコマップを使って確認してまいります。エコマップというと、一般的には中心から派生していくものとイメージされると思いますが、まりあ食堂のイメージは、これもごく自然に、こういう絵をその場で、みんなで書いたのですが、チーム教会とチーム片瀬のほかに、関係機関としては社会福祉協議会とか保育園、子供の家、地域教育機関としては幼稚園、小中学校で、藤沢市のいろいろな事業を活用させていただくようになり、相談することもあるかなということで、このイメージでぐるぐる混ぜ合わせて、これがぐるぐる回っていて、新たなボランティアがどんどん入ってくる、スパイスが入って美味しいスープができ上がるというようなイメージをしています。では、本当に困っている人が来ているのかという課題に対して、ちょうどこの頃、社会活動家で法政大学教授の湯浅誠さんが、子ども食堂の急速な広がり疑問や戸惑いを受けて、ウェブ上で整理をされています。私たち自身、この理念整理によって霧が晴れたような思いで共通理解を持つことができましたので、ご紹介をしたいと思います。
- ・ 38 ページは、湯浅さんがウェブでおっしゃった「子ども食堂とは何か」ですが、背景として、こども食堂の明確な定義や枠組とか、子ども食堂ってこういうものかという一定の理解がないまま、食堂だったらできるかも、食事づくりだったらできるかもという取っつきやすさから、何かしたいという思いを持った方の気持ちをあらわすための手法・ツールとして、どんどん広がっておりました。これを整理したのが 39 ページになります。湯浅さんによると、その方が何をもちょう子ども食堂と考えているのかということをお聞きしないで、議論がかみ合うはずがないということです。湯浅さんは、4つの理念型で整理されているのですが、横軸はターゲット、対象者です。貧困対策型なのか、地域共生型なのか、みんなで楽しもうよという形なのか、地域づくりなのかということ。縦軸は目的であって、本当にみんなで行きやすい地域をつくってほしいものなのか、困っている子に対して、この子のためにやろうというものなのか、というふうな整理をされていて、それでは、自分たちはどこだろうと当てはめてみたわけです。湯浅さんも活動している中の多くは「B型」と「D型」ではないかとおっしゃっていますが、「D型」というのは、私たちのイメージでは、実は事業所さんにも確認しましたが、図の青の吹き出しは、実は私が後からつけ加えたのですけれども、これは学習支援事業の運営をしている「きずなレッジ」さんとか、「ふじきた教室・大庭教室」さんが自分たちの学習支援事業所に参加してくる子どものために、食育の観点に立って始めているものが「D」に当たると思います。具体的にはキュウリとかトマトは当然知っているけれども、シトウを見たことのなかった子どもがいたとか、そういう話も聞いていますので、「D型」というのがそこだとしたら、まりあ食堂はどこかという「B型」でいいのではないかと、私たちの食堂はどなたも大歓迎です。私たちとしては「困っている人、いらっ

しゃい」といって、本当に困っている人って来られるか。経済的な貧困だけが貧困とは私たちも考えていませんし、貧困には時間の貧困、とにかく忙しくて時間がないお母さん、お父さんあるいは地縁、血縁がないとか、転居して間もないとか、おじいちゃん、おばあちゃんが近くにいないとか、人間関係の貧困、また状況によっては心の貧困というのも存在するからだと思います。行きづらさを抱えている方も、そうでない方も参加していただくことで、地域は支え合っているというふうを考えますし、子ども食堂もA B C Dと湯浅さんは分けてはいますが、いろいろな形があって、さまざまな形、方法があってこそいいのだと考えています。

- ・40 ページですが、湯浅誠さんが子ども食堂の新たな課題として、5点挙げておられます。私たちも、「まりあ食堂」はどうなのかということで見直してみたわけです。5つの課題は、実際に見学に来た方によく聞かれたこととなります。食堂の運営に当たって、人、お金・食材、場所はどうしているのかとか、継続とか拡充のために広報・周知・連携をどうしているのかとか、保健・保険はどうしているのと、いつも聞かれてきました。
- ・まず、1点目の「人」については、私たちはスタッフとボランティアがいます。まりあ食堂は、「のれん」も作れるデザイナーとか、元教員、料理好きの主婦、あるいは長きにわたって発展途上国の支援を続けてこられた93歳のシスターも時々来てくださる、そういう方とか養護施設のスタッフとか、私のような行政職員、地域で自治会や民生委員の活動をしている方、子ども会や青少年活動、防犯活動を続けている住民の方というボランティアもいらっしゃいます。
- ・2点目の「お金」ですけれども、開始時にはスタッフみんなで持ち寄れるものを持ち寄って、お金もちょっとずつ出し合ってやってみようということで、スタートをしました。そうしているうちに、3回目あたりからご高齢の信徒の方から、もう少し若かったら自分もこういうことをやりたかったが、私ができることでサポートしますと、定期的なご寄付をいただけるようになりました。また、先ほどご紹介した「お気持ち箱」に見学者や一部の利用者からお気持ちが入るようになりました。それでいろいろな保険に係るお金などを賄っています。「食材」については、スタート時は持ち寄りで行おうと言っていたが、寄附もいただけるようになってからも、近隣のパン屋さんからパンを提供していただいたり、あるいは他地区のお寺の方がフルーツ缶をいつも提供して下さるとか、これは農業と福祉の農福連携事業になりますが、JAわいわい市から出荷者が丹精込めた野菜を一部提供していただいているのを活用しています。3点目の「場所」は、教会の施設を活用します。4点目の「広報・周知・連携」は、開始時から地域のチーム片瀬を中心に、片瀬小学校、片瀬中学校、保育園、子供の家、市の社会福祉協議会にご理解をいただいて、チラシを置いていただく等のご協力をいただきました。また、地元の片瀬海岸の自治会では掲示板にチラシを貼っていただきました。その他、見学を歓迎する

ことで理解を深めていただいて、正しく知っていただくということに気をつけております。5点目の「保健・保険」ですけれども、公衆衛生の方は、これもチーム片瀬を中心に、消毒の仕方を徹底的に学習して、みんなで実践しています。開始前、開始後はボランティアで這いつくばって、テーブルとか床を徹底的に拭くのですが、これが功を奏したようで、子どもたちが食堂に入る前に手洗いを励行して、アルコールスプレーで手の消毒をするということもやっているのですが、今ではすっかり定着しまして、子どもの方から手をかざしてきている状況です。

- ・もう1つの「保険」は、茅ヶ崎市の方で子ども食堂を先んじて始めていた団体の方にお知恵をお借りして、ボランティアのけがに備えた傷害保険と利用者のけがや食あたりに備えた損害賠償保険というNPO活動保険があるので、そちらに加入しております。
- ・回を重ねるたびに活動を通じてさまざまな気づきがある活動ですけれども、ニーズも回ごとに違うことに気づきました。例えば幼稚園ママの団体が仲間の様子が最近おかしいとあって、次回の「まりあで会おうね、私が声をかけておくね」と、そういう場に使っていたり、あるいは雨の日の開催では、若い職人風のお父さんと子どもさんの親子連れが卓球台を囲んでいる姿があったり、近隣に越してこられて、祖父母が近くにいないし、夫が早朝出勤、深夜帰宅で「1歳の子どもと2人きりで雨の日って、出かける当てがなくて息が詰まりそうだったので」と言って来られたお母さんもいました。
- ・一方、ボランティアの方も転居してきたばかりで友人、知人がいない中、地区の社協だよりを見て訪ねてきてくださって、定着された方とか、ご主人を亡くして間もない方、あるいは引きこもりの支援団体の「ユースワークふじさわ」で社会参加の準備を整えている青年が、社会に出る1歩として、こちらをボランティアとして活用してくださっているということがあって、知らないうちにそれぞれにとって居心地の良い居場所になっているということに気づきました。思いがけず支え合いのまちづくりにつながっているということを実感していますけれども、利用者の子どもたちも歩けなかった子が歩けるようになり、小学生が中学生になったり、成長を見守らせていることに喜びを持って、子どもから大人まで支え合いの輪になっているということを実感しています。
- ・46ページでは、若手のケースワーカーが子どもと遊んでいたりと、防犯ボランティアの方が見守ってくださったり、農福連携事業でいただいたお野菜とか、利用者もボランティアも居心地の良い場所であるようにということで、最終的には大人も子どもも利用者もボランティアも、みんなが困り事をつぶやける場所であつたらいい、希望であつたらいい、あるいは私たちの未来がこの子たちとともに明るくあつたらいいということを実感を持って願えるようになったものです。これからも小さな活動ではございますが、食を通じて子どもの育ちを見守るという場を継続していきたいと考えております。ご清聴ありがとうございました。〔拍手〕

## 鈴木市長

- ・ありがとうございました。ただいまのお話でご質問等ありましたらお願いします。

## 大津委員

- ・大変結構な活動を聞かせていただきました。私も子ども食堂には興味を持っていて、すぐできるかどうかはわからないけれども、少し関心を強めていきたいと思っているところです。そこで幾つか確認ですけれども、月1回ぐらいのペースで開催されていますが、これが例えば月2回とか3回になった場合、どんな問題があるのか、例えば資金の問題とかスタッフの問題とかいろいろあると思うのですが、分かれば教えていただけますか。
- ・それから時間については5～6時間やっているのかなと思うのですが、食事はいつ来ても大丈夫なのかとか、時間割りの的なものがあれば教えていただきたい。また、事務局みたいなものがあるのか、ないのか。例えば寄付の受取先とか教えていただきたいと思います。

## 鳥生氏

- ・1点目の回数の問題については、取っかかりが子どもの貧困だったので、月2回ぐらいやりたいという思いがあったのですが、無理なく楽しくやっということうことで、とにかく1年やってみよう。回数を増やすとなると、スタッフボランティアの核となる人間が必ずいないといけないということと、ボランティアの確保など、今、振り返りますと、私たちの活動の中では月に1回程度が、来てくださるボランティアにも手ごろで、丁度よいというところでやっています。問題点は人員の確保です。
- ・時間割りは15時から19時で、最初は遊んでいただいて、食事は17時からの提供で、18時30分がラストオーダーで、19時にはクローズという大枠で運営しております。
- ・事務局については、スタッフボランティアが窓口になっているので、事務局と言えば事務局かもしれないのですが、会計の担当者は定めておりますので、ご寄付はスタッフボランティアが受け付けをしています。なお、NPOとかは立ち上げずに運営しております。

## 大津委員

- ・寄付を受けるときに野菜とか肉とかいろいろなものの受取先は、スタッフ個々の人が受けてきて、持ち寄るというイメージですか。

## 鳥生氏

- ・基本的には開始前に教会にお持ち込みいただくことが多いのですが、スタッフボランティアを介して受け取ったら、全員に周知をして、決まった場所に置いておきます。また、個人で受け取ることもあります。

## 飯島委員

- ・リピーターの方が多いのか、新しい方が次々と回を追うごとに来るのか、その割合など教えていただきたい。リピーターが多いとすると、どういうところに魅力を感じて何度も足を運んでこられるのかもお聞かせください。

## 鳥生氏

- ・実は割合は正確には把握しておりません。いつも活動報告を通信という形で月に1回、手作りで発行しているため、人数の把握はしております。ただ、保険の適用の可能性を考えて、利用者に予めお断りをする中で、名前を受付で書いていただいています。まだ、整理が間に合わないのので、割合はわかりませんが、比較的顔がわかるようになってきているので、リピーターが多いかと思えます。つい先だっても自主保育をしているお母さんの集団が利用され、どちらかという、リピーターが多いと把握しております。魅力と言いますと、お母さんはお休みしていいよということで、ご飯を食べている間、子どもが遊んでいるところにも遊び対応のボランティアがいて、お母さんが休めるような状態にしているのが、楽しくおしゃべりをして、少し息をついていただけるのが魅力なのか、あるいはお味とか野菜が、例えばナスがこんなにおいしくてびっくりしたと言われたりするので、お味や調理の仕方も年上の方が作ってくださっているのですが、もしかしたら若いお母さんたちはうれしいのかなと思います。

## 飯島委員

- ・お子さんが1人で来るよりも、大人と子どもと来て、卓球をしたり、バスケットボールをしたりというような姿が多く見られるということですか。

## 鳥生氏

- ・大人と子ども、親子で来る、おばあちゃんと子どもということもあります。親子の組み合わせが圧倒的に多いのですが、中に3名程度いつも1人で来る子がいます。たまにですが、いつもお母さんと来る子が1人で来て、クローズした後、後片づけのときもさりげなく一緒にいて、おうちにすぐに帰りたくないのかなと思うような場面に出会うこともあります。基本的には大人と来ます。

## 小竹委員

- ・私は10月4日の「まりあ食堂」を見学させていただき、ありがとうございました。大変な盛況で、私が伺ったのは6時過ぎでしたけれども、入り口のセキュリティのチェックも厳しく、私は子どもも連れておりませんし、大人が1人で入ってくるので、見学に来たのと理由を言ったのですが、間口もいつもの教会のように広く開けていないので、人の出入りにも気を使ってやっているし、セキュリティも保たれているなと思いました。そして中に入りますと、皆さんが元気に遊んでいる姿、楽しそうにご飯を食べている姿を拝見しましたが、そのときはお子さんだけで140人、お子さんをお連れになった大人の方の喫食が14ぐらいと伺って、かなり盛況だと思ったのですが、月に1度の楽しいこの日を皆さん、待ち焦がれていると思うのですが、この日以外は、皆さんはどこでどうなさっているのか、お耳に入ったことはありますか。

## 鳥生氏

- ・申しわけありません。この日以外はどうされているかというのは、個別には聞いていないのですが、お母さん方からは、これがあるから、これを目指して来ましたということを言っているということで、少しずつお話を聞くようにしているような状況です。

## 中林委員

- ・丁寧なご説明で手に取るようにわかりました。多分、いろいろご苦労があってここまで来られたと思っています。私もスタッフとして関わることができるかと思うのですが、立ち上げとなると、目に見えないご苦労がたくさんあったのではないかと。その中で、今、思えば一番大変だったところとか、今後の課題等がありましたら、教えてください。

## 鳥生氏

- ・大変だったことは、地域でも教会でもそうですけれども、私たち有志で立ち上げていますので、子どもの貧困とか子ども食堂という自分たちの思いにとらわれて、沿わないものを行っているのではないかとというようなご意見をいただくことが多かったのですが、その都度、丁寧にご説明していったというのが苦労をした点で、湯浅さんの理論整理に助けられたのですが、それでも折に触れてご説明をすることを今でも重ねているところです。
- ・課題としては、若手のボランティアの確保がなかなか大変で、学生さんは忙しい季節があるのですが、できれば高校生、大学生世代のボランティアがもう少し入ってくるとありがたいというのが課題です。

## 中林委員

- ・やはり課題は人手の確保というところかと思います。ボランティアもやったら楽しいと思いますので、そういう周知等をできるだけ、こちらもやっていきたいと思いますので、これからもよろしくお願いします。

## 平岩教育長

- ・まずは 1 年以上続けていただいて、本当にありがとうございます。そして子ども食堂が「まりあ食堂」として始まったことをきっかけに、やりたいと思ってもどういふふうにやったらいいのだろう、自分たちもできるのだろうかと思っている方もたくさんいらっしゃると思うので、そういう人たちにとっての 1 つのモデルとして「まりあ食堂」がいい例となっているのではないかと、本当にありがたく思っています。そして貧困という点では、私も個人的には経済的な貧困だけではなく、心の貧困もありますし、時間とか、共働きをされていて経済的には豊かだけれども、子どもに対しての時間的な貧困というものもあると思っています。そうした中で、誰でもウエルカムというところで、様々な課題を抱えた人たちに対しての支援と地域のつながりという意味では、本当に素晴らしいと思っています。
- ・お聞きしたいことは、教会スタッフと地域スタッフがうまくまとまりながら、取組が進んでいると思うのですが、役割分担はあるのでしょうか。地域のスタッフというのは、どんな方が多いのでしょうか。例えば民生委員とか青少年指導員など、さまざまな地域活動をしている方が多いのか、全くそれとは別な形で入られているのか、その辺のところをお伺いします。

## 鳥生氏

- ・教会と地域のチームの役割分担ですけれども、基本的には教会の敷地に関することですか、お皿とか食器も使っていますので、営繕に係るところはチーム教会で、地域の小学校、中学校、保育園とのやり取り、あるいは市の社会福祉協議会と連携して、農福連携の中で野菜をいただきに行く、これはあえて地域の方を中心にやっています。そういうところから、こんなことが市でも可能性があるという理解が深まったらいいなという思いもあって、地域の方に携わっていただいています。そして今、核となっているのは地域メンバーでは、スタッフボランティアは 4 人ですけれども、主任児童委員の方と子供の家の運営者になります。

## 平岩教育長

- ・地域団体の方が入ると、そこからまた次のつながりができて、継続性ができるのではな

いかというところでお聞きしました。また、いらしている方の中で、様々な課題を抱えていて、時間も経済的なところも心もそれぞれ課題だと思っていますけれども、気になるお子さん、または保護者の方たちに対しての支援が繋がったケースはありますか。

## 鳥生氏

- ・気になるお子さんは実際いらっしゃいます。これには差し支えのない範囲で、学校にこういうお子さんが1人で来て、遅くまでいて心配だったということをお伝えしたことはあります。あるいは市の社会福祉協議会にコミュニティソーシャルワーカーの活動がありますので、なるべく、コミュニティソーシャルワーカーも定期的に見に来てくださる時に相談をしたり、また、時々気にしてお顔を出していただきたいという場合もあります。

## 平岩教育長

- ・これは関係部署の方になるかと思うのですが、子ども食堂について、藤沢市の状況がどのようにになっているのか聞かせてください。

## 子育て企画課主幹

- ・子ども食堂の状況について、ご説明いたします。鳥生さんのご説明にもあったように、子ども食堂は、地域の方の創意工夫により運営され、また、地域の人たちの参加と協力により地域が発信する居場所であり、行政に対する届出等がないものですから、地域活動において、どこでどれだけ子ども食堂ができているのか、把握するすべが今のところ行政側にはございません。行政が委託して食を提供している事業としては生活支援事業と学習支援事業の5事業があります。
- ・「まりあ食堂」のような地域の皆さんの活動としての子ども食堂は、行政側として把握しているのは7事業ございます。その他に地域の縁側、これは市の補助事業ですけれども、滝の沢地区で「たきのさわパラダイス」という取組がございます。これは不定期に1回だけですけれども、今年の夏休みに入る日に、子どもたちを集めてお昼に食事を提供したことがございます。また、県の事業で児童養護施設退所者への相談支援を辻堂駅で行っていますが、相談支援の一環として食事の提供をしており、ここにも藤沢市として農福連携の食材を提供しております。

## 鈴木市長

- ・他にはよろしいですか。まりあ食堂の取組をお聞かせいただきまして、大変参考になりました。地域の人たちが自主的にできることを無理なく行っていくということが一番大



事で、これではいけないということはないのかなという感じもいたしておりますし、地域の縁側等もありますけれども、何はともあれ、やっている方の熱意、自主性が一番大事であるとおつくづく感じているところです。ぜひまた、まりあ食堂の例を参考に、多くのところで多くの人たちが関わっていただけることが大事だという思いをいたしました。

- ・いずれにしても藤沢市では「人の和」ということと、「マルチパートナーシップ」ということを大事にしておりますので、そういった中で、2020 東京オリンピック・パラリンピックもごございますけれども、そういった取組も想定しながら、ボランティア等で生かしていただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。
- ・この件について他になければ、まりあ食堂についての鳥生講師の説明を終わらせていただきたいと思っております。どうもありがとうございました。

## 鈴木市長

- ・次に、議題（2）その他。事務局から説明をお願いします。

## 事務局

- ・事務局から2点ございます。1点目は、教育大綱の普及啓発物についてです。前回の会議の中で今年度、小中学生向けに教育大綱の普及啓発物を配布するということをご報告いたしました。本日は、お手元の資料をもとにご紹介しますと、資料2-1「～学びの環・人の和・元気の輪～」マップを配布しております。この資料には、小学生にいただきたい市内の主な公共施設を、左側には教育大綱を掲載しております。各クラスに掲示をしていただいて、郷土学習などに利用していただきたいと考えております。ちなみに実物はこの会議室の3カ所に掲示しております。
- ・続いて、資料2-2は、中学生向けに配布するクリアファイルのデザインを印刷したものです。クリアファイルについては、地域の理解や愛着が高まるよう教育大綱だけではなく、裏面に「市民憲章」、市の木・市の花・市の鳥と、藤沢市の公式マスコットキャラクター「ふじキュン」を表面にデザインをしております。実物のクリアファイルは、会場内の後ろのテーブルと委員の皆様のお手元にも置かせていただいております。
- ・2点目は、第3回総合教育会議の開催日程については、資料3のとおり予定しております。テーマ等について、ご提案等がありましたら事務局の方にお申し出ください、そのご提案を踏まえ、事務局にて調整をした上で、決定したいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

## 鈴木市長

- ・委員の皆様、関係職員の方で全体を通して何かありますか。(なし)
- ・次の会は、新庁舎の会議室になるかと思えます。そこには教育委員会と子ども青少年部と学校が一体となったフロアとなります。

## 事務局

- ・それでは、次回は1月31日(水)午後1時30分からとなります。テーマ等は決まりましたら、開催通知と合わせてご連絡をさせていただきます。また、委員の方でテーマのご希望等がありましたら、事務局までお知らせいただければと思います。
- ・以上で、第2回総合教育会議を終了といたします。ありがとうございました。

(午後2時50分 閉会)

2017年(平成29年)12月27日

この会議の経過を記載し相違ないことを確認する。

藤 沢 市 長

鈴木恒夫



藤沢市教育委員

中林奈美子

